令和２年９月15日
庁　議　資　料

令和３年度予算編成方針（案）

令 和 ２ 年 ９ 月 15 日
狛江市長　松 原 俊 雄

新型コロナウイルス感染症の収束は、未だ見通せていないが、収束したポストコロナの世界は、新たな世界、いわゆる「ニューノーマル」へと移行すると言われている。今は、まさに時代の転換点に直面している。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、行政の課題、そして改善点を示してくれたとも言える。これまでの補正予算で各種給付や支援を計上してきたが、市民のみなさんに届くまでには、今までと同様それなりの時間を要している。これは、行政分野のデジタル化・オンライン化の遅れを意味する。国は、かねてより、デジタル化を原動力とするSociety5.0の実現を進めてきたが、コロナ禍を受け、社会全体のデジタル化、デジタル・ガバメントを一丁目一番地の最優先課題として位置付け、国・地方一体での業務プロセス・情報システムの標準化・共有化、地方自治体のデジタル化の展開等を強力に推進するとしている。これは東京都においても同様で、デジタル変革の遅れを取り戻す構造改革を進めるとしている。狛江市においても、これらに呼応し、各分野において、AI・RPAなどICT技術を駆使し、市民生活をより良いものに変革するデジタルトランスフォーメーションを進めていかなければならない。

新型コロナウイルス感染症が収束することを期待するが、コロナ禍前に後戻りすることなく、これからの50年に向け、新たな日常への予算とする。

しかしながら、コロナ禍による経済への打撃は大きく、４～６月の実質GDP成長率は年率換算でマイナス28.1％と戦後最悪に陥るなど、市財政への影響は厳しくなることに間違いはない。

これらを踏まえたうえで、令和３年度予算は、今年度からの総合基本計画に基づくとともに、私の任期も折り返しとなり、市長選挙時に掲げた公約、「日本一やさしいまち、狛江」の実現に向けた編成とする。コロナ禍により、より限られた予算となることから、単に増額の要求をするのではなく、大胆な予算の組み換えやスクラップ・アンド・ビルドの観点からメリハリを持った要求としていただきたい。

以上を踏まえて、先に企画財政部長が通知した「令和３年度予算編成要領について」に留意のうえ、適切な予算編成に努めていただきたい。